

【児童への話】

7月に入りました。先週の朝会では、漢字の「漢」は天の川を表していることをお話ししました。今週7日木曜日は七夕です。今日は、「七夕のいろいろ」について、皆さんにお話しします。

七夕はもともと、今とは違って8月の行事だったので、晴れの日が多かったようです。でも、今の時期の七夕は梅雨の最中であることが多く、例年、晴れる確率は30%程度だそうです。今年は早くも梅雨が明けていますので、きれいな天の川が見られるかもしれませんね。

七夕は、こと座ベガの織姫と、わし座アルタイルの彦星が1年に一度だけ出会える日と言われていますが、実はこのふたつの星は、光の速さでまっしぐらに進んでも14.4年かかるほど離れています。織姫と彦星が会うために、互いに光の速さで進んでも、7年と2か月以上はかかる計算なので、1年に一度会うのは物理的には不可能です。きっと、愛は光の速さを超える、ということなのでしょう。

また七夕では、願い事を書いた五色の短冊（赤・紫・青・白・黄）を笹にくくり付けますね。これは、織姫が機織りの上手な働き者だったので、織姫のように手芸や裁縫などが上手になりますように、という願いをしたことから始まり、自分の習っていることやお勉強がよくできるようになることを願う行事となったそうです。皆さんも、お願いしたことが叶うように、一日ひとつの努力を忘れずに頑張ってください。今日は「七夕のいろいろ」についてお話ししました。

【本講話について】

番町小ではこの時期、中央階段に各学年の子どもたちの願い事が書かれた短冊が飾られています。将来の夢、行ってみたい場所、楽しい学校生活などの微笑ましいお願いに交じって、世界の平和やコロナの収束、そして家族の健康を願う短冊が目立ち、子どもたちなりにこの時世を憂いていることがよく分かります。子どもたちが無邪気に自分の願い事ができる世の中になるよう、大人が頑張ることがたくさんあるのだと、しみじみ感じた次第です。

1学期は残り12日の登校日を残すのみです。猛暑の中ですが、子どもたちが力を高め、2学期からも学校が楽しみだと思えるような指導を積み重ねていきます。